



及川 英一さん(70)
のり子さん(69)
豊里町・東二ツ屋
1969(昭和44)年1月入籍

忙しい日常でも一緒に時間を大切に

★二人のなれ初めは
【のり子】昔、地域でよく開かれていた秋祭りの演芸会で、2人で踊ったのがきっかけかな。お父さん覚えてないでしょ(笑)
★お互いの第一印象は
【のり子】すてきな人だなと思った。
【英一】当時は、生活のために共働きしなければならなかったから、結婚したのかな(笑)
★結婚当時の思い出は
【のり子】今も看護師をしているので、昔から休みがあまりなかったかな。子どもができてからは、子育てに奮闘する毎日。休みが取れたときは、みんなまで観光地巡りをしていたよね。
【英一】当時の趣味は、釣りとゴルフ。釣りは、平日でも暗いうちから始めて、仕事の出勤時間には戻ってきていたよ。
★犬を飼っているんですね
【のり子】愛犬ナナちゃん、長男が結婚して家を出るからって、披露宴で花束じゃなく犬を贈ってくれたの。いつも癒される大切な家族の一員。
★夫婦円満のコツは
【のり子】やっぱり干渉しないことが一番だよ。
【英一】忙しい毎日だけど、一緒にいられるときは、2人で買い物などに出かけているから、そういう時間が大切な。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「古里ありがとう」

古里を離れて半世紀余り。東日本大震災の支援をはじめ、各種ボランティア活動が中心の毎日を送っています。その源は、古里の四季折々の風景や遊びなどの体験が育んでくれたものです。
春 小学3年まで、現在は市の施設になっていく桜場小学校に通いました。4年からは、上沼中央小(現上沼小)へ。小さな体で遠くまで歩くのが大変でした。田植え時期には、村中の田んぼが人や牛馬でいっぱい。学校の農繁休業は楽しみでしたが、農作業は苦痛でもありました。
夏 指定された堀で、待ちに待った水浴び。先生や地域の

熊谷 洋興さん(75)

東京中田会副会長
中田町(鵜)出身



人に見守られながら、水に入りました。学校帰り、友達に洋服やカバンを持ってもらい、流れに身を任せながら泳いで帰ることもありました。釣りやじゃらし、かけ針など、たくさん楽しみがありました。
秋 学校の資金づくりにイナゴ捕りが始まり、少しでも目方を増やそうと、悪知恵を働かせました。米の収穫が終わると、神社の神楽太鼓が「みんな集まれ、早く集まれ」とはやしたてます。やつともらったわずかなお金を握りしめ神社へ。遊びは、神楽やチャンバラごっこ。神楽は今でも楽しみの一つで、古里で撮った神楽大会のビデオ鑑賞を続けています。夢は、東京銀座で神楽を立てられたらと思っています。
冬 手作りのそりや竹、下駄スケートなどで遊びました。3月には、旧友との別れが待っていました。ほとんどが就職のため上京。途中でくじけても二度と古里には帰れません。旧友は今どこでどうしているかと思っていた折、古里で喜寿の会が開かれ、当時の思い出話に花が咲きました。
次回、傘寿の会で再会することを約束。思い出を振り返りながら、帰路に着きました。

おらほの産直

産地直売所
「いしこし大好き」



店内には元気な声が響き渡り、なじみのお客さんが後を絶たない。活気あふれる店を支えるスタッフの皆さん



新鮮な旬の野菜が店頭並びます

今月は、産地直売所「いしこし大好き」の店主、佐藤律子さんにお話を伺いました。
Q「いしこし大好き」はどのようなお店ですか。お勧めのものも教えてください。
A「いしこし大好き」は、JR

石越駅の東側、県道沿いにあります。2001年にオープンし、当店の会員やお客さんの協力のおかげで営業を続けています。会員が栽培した石越産の野菜や米などを販売。地元食材を使い、店内でおいにぎりや惣菜などを手作りしています。
名物商品は、みそ、小麦粉、砂糖を混ぜて揚げた「みそやき」。餅や麩なども人気です。惣菜は量り売り、そばやうどんも販売していますので、店内の飲食スペースをご利用ください。お茶とコーヒーは、セルフサービスで無料です。



みそ焼きやカボチャサラダなどの惣菜も豊富

気軽に立ち寄りください。
【問い合わせ】産地直売所「いしこし大好き」(石越町南郷字館前207番地1)
☎0228(34)3623

短歌
まちの文芸

作品募集!
●1月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、11月30日(木)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

台風(たいふう)のすぎし畑(はたけ)に立ち寄れば
振り(ふり)回(まわ)されて枯(か)れし菜(な)のあり
朝(あ)もやに見(み)なれた風景(ふうけい)の包(つつ)まれて
墨(すみ)絵(え)の様に霞(かすみ)んで浮(う)かぶ
鮮(あ)やかな紅葉(もみぢ)をまとい照(て)り映(うつ)える
秋色(あきいろ)絵具(えき)の染(ぞ)める栗駒(りこま)山(やま)
ひと夏(なつ)と命(いのち)の限(かぎ)り鳴(な)きつくし
蝉(せみ)の声(こゑ)絶(た)え秋(あき)深(ふか)まりぬ
もくせい(もくせい)の香(か)りを運(は)ぶ夕風(ゆふかぜ)の
我が肩(かた)先(さき)にふれる嬉(うれ)しさ

相澤 志子 (東和)
千葉 良子 (東和)
及川 慎一 (中田)
小野寺典子 (中田)
熊谷たかよ (中田)

亡友(なごみ)の路地(みち)の片隅(かたぐみ)白百合(しろひよこ)や
花(はな)を愛(あい)でし友(とも)を偲(しの)ばん
孫(まご)二人(ふたり)つれ娘(むすめ)夫婦(夫婦)は久(ひさ)にきし
笑顔(えんご)のうつつしえたびて帰(かえ)りぬ
気仙沼(けせんま)賑(にぎ)わいもどりて町(まち)なみも
慰安(ゐんあん)の宿(しゆく)の三陸(さんりく)味(あじ)わう
山脈(さんみやく)も清(きよ)き流(なが)れも変(か)らねど
廢居(はいきょ)となりし故里(ふるさと)悲(かな)し
後の月(ごのつき)里芋(りいも)の葉群(はぐむ)の白露(しろつゆ)を
しらじら照(て)り浮(う)え出(で)づるなり

石崎(いしざき)よしの (米山)
千葉(ちば)たかこ (米山)
水野(みづの)トヨコ (米山)
加藤(かとう)了子 (南方)
阿部(あべ) 洋子 (津山)